

事業評価の報告

(令和4年度)

単位：千円

基本目標	施策の大綱	施策と評価対象事業の概要		事業費 (人件費含)	
		自己評価並びに有識者意見		評価	
第5章	第1節	① 巡回子ども保育・教育相談事業・こどもサポートセンター事業			5,621
歴史と文化を継承し創造する心豊かな人を育むむらづくり	子ども支援の充実	自己評価	各保育園・学校の子どもをより深く参観することができ、保育士・教員・保護者への支援の充実が図れた。各学期毎、教育相談員連絡会を開催し、子ども一人ひとりの支援策を検討する機会を設け、子どもの成長に沿った支援の充実が図れた。	A	
		今後の方向	各園・各校とも巡回対象の児童生徒が増加。巡回子ども保育・教育相談の時間を有効に活用して、子どもの状態や成長等に沿いながら支援方法（保育士や教員等の対応の仕方）や体制の充実を図りたい。		
		意見	子どもをより深く理解できる関係者の組織があり、子ども支援が充実している。関係者の力量を高めあうとともに、家庭支援に力を入れてほしい。		
	② 児童館事業・放課後児童健全育成事業				10,817
	自己評価	放課後や長期休業中児童を預かる事業として、支援員資質向上の研修会実施及び職場内での教育訓練（OJT）を実施したい。引き続き研修を行うとともに現場倫理を自覚して職務に当たれるようにしていきたい。 また、児童を安心して預けることが出来るよう、新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、閉所することのないよう、今後も予防を徹底していく。	B		
	今後の方向	活動内容の充実化や児童の行動に関心をもち対応の仕方をより良いものにしていく。また、衛生管理や安全対策についても引き続きマニュアルを点検し職員全員が同じ対応ができるように指導能力の向上を図っていく。			
	意見	児童館事業、放課後指導健全育成事業が増々大事になっていく。安全性や個にふさわしい指導内容の充実をしてほしい。			
	③ 文科型コミュニティ・スクールの推進事業				132
	自己評価	コミュニティ・スクールへの移行期間として、コーディネーター3名の他、小中合同学校運営委員会を設置し、来年度運用開始のコミュニティ・スクールの組織づくりや学校評価をおこなう。	B		
	今後の方向	令和5年度コミュニティ・スクールがスムーズにスタートできるよう更に体制を整えるようにする。			
意見	従来も努力してきた地域と学校との協力関係を無理なく深めてほしい。移行期間の実践をしっかり反省評価して次へ進んでもらいたい。				
第2節	① 保育園加配保育士配置事業			4,291	
保育環境・幼児教育の充実	保育園加配保育士配置事業	自己評価	保育園での集団保育の中で、個別に必要な支援をするための加配保育士を2名配置し保育を実施した。転入児で個別支援が必要な場合もあり、加配保育士の対応についてはその都度見直し検討を行った。	B	
		今後の方向	今後も園児および保護者の保育ニーズを精査するとともに、対応できる人員配置等体制整備を進めていく必要がある。		
		意見	実情に応じて加配は必要。予算を伴うことだが、園児のためにも多様な成長に対応できるように常に見直してほしい。		
	② 保育園施設修繕事業				2,477
	自己評価	緊急度が高く、優先順位を付ける中で、施設修繕・改善を実施する。また、施設老朽化に伴い突発的な修繕も多く発生したため計画的に修繕を行えるよう努めたい。	A		
	今後の方向	毎年、計画的かつ迅速な施設修繕等を行い、保育園の安全性の向上やより良い保育環境づくりを図る必要がある。			
意見	計画的に実施していただいている。常に修繕の必要は出るので、機に応じて即対応をお願いしたい。				

		<b>③ やまほいく・二園交流事業</b>	344	
自己評価	・年長児は合同保育を行うことで仲間意識が育まれ、安心して就学を迎えることができた。 ・両地域を生かした保育活動を行うことで、保護者や地域の方に両園の様子や子どもたちの姿を理解してもらう機会となっている。		B	
今後の方向	職員同士の打ち合わせや子どもの育ちの姿を語り合う場を継続して作り、保育の充実や地域への発信をすすめていく。			
意見	交流はよくやっていると思う。小学校で一緒になるので子供も親も交流していくことが大事。やまほいくでは、両保育園を取り巻く自然環境を活かし、園児によい体験をさせる事が出来引ききたと思う。			
<b>第3節</b>	<b>① 中学校語学指導助手配置事業</b>		3,187	
学校環境・学校教育の充実	自己評価	新型コロナウイルス感染症水際対策により、新規入国ができず、令和4年4月から着任。JETプログラム（自治体国際化協会）の外国語指導助手（ALT）が、中学校の英語科指導補助に当たるとともに、保育園や小学校の外国語活動へも参加する。	B	
	今後の方向	保小中と教育委員会との連携による効果的な学習に向けた話し合いを行い、今後も継続実施し、保・小・中の一貫した外国語活動への取組を充実させたい。		
	意見	保小中一貫の外国語教育、この村の特徴として大切にしたい。		
	<b>② 小学校教科担当・図書館司書配置事業</b>			4,979
	自己評価	・小学校で算数・理科の専門教科担当の配置を行い、専門的な教科学習の充実が図られた。 ・システムでの管理により、図書館の適切な管理及び利便性の向上が図れ、本の貸し出しや読書推進に貢献できた。	B	
	今後の方向	・小規模校により、県費職員の配置数が限られ、専門教科担当の不足が今後も懸念されるため村費補充は必要になってくる。 ・児童が興味を持つような図書を整備し本に親しむ環境を整備していく。		
	意見	小学校での専科教員配置はとても良い(算・理)。引き続き継続し充実して行ってほしい。村の負担は大きいですが、村で頑張ってもらいたい。		
	<b>③ 私学助成事業</b>			680
	自己評価	私立高等学校へ在籍している生徒の確認等、適切に実施でき、授業料補助等の一助として有効な施策と考える。	B	
	今後の方向	継続実施する。		
意見	「村の人材を村が育てる」ことから、生徒の実態をつかみ、適切な助成を継続してもらいたい。			
<b>④ 子ども支援専門員等配置事業</b>			2,773	
自己評価	令和2年度に策定した「第二次筑北村教育大綱」及び令和3年度に策定した「筑北村幼児期教育・保育推進プラン」の実施のために必要な保育園及び小中学校への支援。更には子どもや保護者への支援をすることで、0歳～18歳までの一貫した支援を関係機関と連携して強化することができた。	A		
今後の方向	第3次教育大綱策定及び実施に当たり長期的な視点にたち、育ちに対する一貫した支援体制の更なる充実・強化に向け、継続的な配置が必要である。			
意見	見通しを持ち、計画的に0～18歳までの支援のため継続的な配置をしてください。			
<b>⑤ 小中学校特別支援教育支援員配置事業</b>			20,804	
自己評価	児童生徒一人ひとりの育ちに対する支援の充実を図るため、通常学級に在籍する温かな配慮を要する児童生徒への支援は、支援員の配置が不可欠であり、有効な教育活動と考える。	A		
今後の方向	特別な支援を要する児童生徒の数的状況に応じ、各学校へ支援員の配置を行う。			
意見	児童生徒の実態に沿った支援ができています。今後も必要十分な支援を続けてもらいたい。			

		<b>⑥ 要保護・準要保護就学援助事業</b>	1,550	
自己評価	国の制度に基づいた生活困難な世帯への補助制度であり、その認定については補助提要に基づく判断をおこなっているが、生活の困難さが世帯によって異なるため認定のための判断が難しい世帯が増加傾向にある。		B	
今後の方向	今後も生活困難な世帯への就学補助を行い、児童生徒が問題なく学校生活を送れるよう継続実施する。			
意見	経済的理由で学校生活が困難にならないよう継続してほしい。			
		<b>⑦ 小中学校米飯給食補助事業</b>	262	
自己評価	学校給食へ安心・安全な筑北産米を提供することができ、他の地域食材も含め、地産地消の促進及び食育の推進に資することができた。		B	
今後の方向	米穀単価の変動に注視しながら、適正な単価設定を行い、また、精米検査の継続実施により、安心・安全な筑北産米の提供を行っていく。			
意見	郷土の食品を食べることは郷土愛につながり、地産地消をとおして食育の充実をしてもらいたい。また、学校給食で地元の食材が使用されることにより、生産者の生産意欲にもつながり良いと思う。			
		<b>⑧ GIGAスクール構想推進事業</b>	6,491	
自己評価	中学校では、全国学力調査英語のオンラインでの「話すこと」実施。また、研究授業での端末を使った授業を発表するなど積極的な取り組みが行われている。小学校では、1年生から6年生と学年別での活用に難しさがあり、教える側のICTリテラシースキルに不足もあり、すぐにはICT機器等を授業への活用につながらない面がある。		B	
今後の方向	ITC支援員による小中学校の児童生徒及び教職員にICTの支援を引き続き行っていく。また、SNS等のコミュニケーションツール等で児童生徒が被害を受けないように情報モラルの学習も行っていく。			
意見	流行(新しい方針)に押されることなく、本当に効果的なICT導入は授業のどこでどうすると効果的か地道に研究実践して子どもを伸ばしてもらいたい。また、教職員等への支援として、引き続きICT支援員の配置をお願いします。			
		<b>⑨ 小中学校等施設修繕事業</b>	72,591	
自己評価	中学校では、体育館の屋根及び外壁の修繕を実施。また、給食棟のLED化やプールの循環ろ過タンクの更新等を実施。小学校では、体育館の屋内消火栓ポンプの入替工事を令和5年度へ繰越し実施。緊急度が高く、優先順位を付ける中で、施設修繕・改善を実施したが、施設老朽化に伴い突発的な修繕も多く発生し、特に小学校プールの漏水が今後の課題となる。		B	
今後の方向	毎年、計画的かつ迅速な施設修繕等を行い、学校の安全性の向上やより良い学習環境づくりを図る必要がある。小学校のプールについて、改修や授業形態等学校と協議していく。			
意見	施設は、常に老朽化していくので修繕事業は大変だが計画的にしてもらいたい。			
第4節	<b>① 新規文化財認定事業</b>		0	
歴史・文化の継承と創造	自己評価	新規文化財指定なし。		
	今後の方向	文化財の調査、整理を進めながら指定、保護に努めていく。		
	意見	指定は一段落しているようだが、常に目を配り、村民多くの声を得てもらいたい。さらに村に残したい近代遺産を調べてほしい。		
			<b>② 村歴史民俗資料館整備事業</b>	1,238
	自己評価	生涯学習支援ボランティアの協力を得て、資料館内の整備が徐々に進められてきているが、人材不足が懸念されるため、再構築していく必要があると考えている。喫緊の課題であった老朽化した収蔵庫は、収蔵物の全てを移動、活用保存、記録保存し、収蔵庫内の整理ができた。		B
今後の方向	生涯学習支援ボランティア等の協力により、展示品整備・充実を図りたい。来館者を増やすために村外への情報発信を行う必要がある。			
意見	数多くの民俗資料を整理し展示する事は大変ではあるが、収蔵物の展示方法を刷新し村外への情報発信は大事な事と思います。また学校関係者にも利用を勧めていく頂きたい。			

		<b>③ 文化財保護事業</b>	330
	自己評価	村指定文化財への補助金交付はなかったが、国指定重要文化財である麻績神明社の消防設備修繕事業に補助金を交付した。	B
	今後の方向	指定文化財のパトロール実施により現状把握し、管理者の要望も整理しながら、必要に応じ補助金等の交付を行い、文化財保護に努める。	
	意見	文化財は村の大切なもの、保護に努めてください。指定文化財にはどんなものがあるか広報などで知らせる必要もあると思う。	
<b>第5節</b>	<b>① 社会人権教育推進事業</b>		0
<b>人権尊重社会の推進</b>	自己評価	人権意識を高めるため、身近で分かりやすい題材を村広報に掲載し啓発活動した。住民福祉課と連携して講演会を行った。	B
	今後の方向	人権意識がまだ低いことから引き続き村広報、公民館活動、講演会等のあらゆる場で、身近な人権事例等を意図的に取り込み、自然体で人権尊重の意識を高めるよう啓発していく。	
	意見	講演会も大事だがなかなか人が集まらないのが課題。難しい事だが、人権意識調査等で現在の村の実態の把握を進めてもらいたい。	
<b>第6節</b>	<b>① 生涯学習事業（各種イベント・講座等開設）</b>		943
<b>生涯学習の推進</b>	自己評価	コロナ禍により停滞していた各種事業を完全とは言えないが再開することができた。また、新規教室・講座を実施することができ生涯学習の推進に繋がった。	B
	今後の方向	停滞していた事業を完全再開するとともに、年齢層の参加者ニーズを捉えた教室等を開催していきたい。また、時代に合った開催方法を模索しながら、より充実した事業展開を図る。	
	意見	「今後の方向」通りさらに充実させてもらいたい。コロナ禍で停滞していた各種事業が再開してきたが人が集まりにくくなっていると思うので呼びかけが大事。	
		<b>② 青少年育成補助事業</b>	671
	自己評価	地域の未来を担う青少年が様々な生活体験や自立した人としての必要な知識を培うため、本補助金を交付することにより、各育成会活動を活性化させることができた。	B
	今後の方向	各分館の正副育成会長による筑北村子ども会育成連絡協議会を開催し、各地域の情報交換を行った。少子化で子どもが少ない地域については、他地区と合同に活動することも考えていく必要がある。	
	意見	地域での育成事業は大事なもので続けていってほしい。育成会の指導者研修が必要。他地域との合同活動も検討されたい。	
		<b>③ 分館運営・活動補助事業</b>	2,697
	自己評価	分館活動交付金の活用方法については、活性化につながる内容であれば特に定めはないため、地域の創意工夫により活動を展開することができた分館がある一方、コロナ禍で事業を縮小又は中止した分館が多かった。	B
	今後の方向	引き続き他地域の活動事例も紹介し更なる交付金の有効活用を図るとともに、子どもから高齢者まで幅広い年齢層が活動できるような仕組みを手掛けることが必要である。	
	意見	「今後の方向」通りさらに充実させてもらいたい。他地域の活動事例は、何をやったらいいのかよく理解していない分館の参考になる。地域活動は住民の結びつきに大事です。	
		<b>④ 文化系クラブ育成補助事業</b>	250
	自己評価	各種団体への活動補助事業の成果は、文化祭への展示・発表への参加につながり、各分野の追究や技術を高め、又クラブ員の親睦を図ることができたが、コロナ禍で思うような活動が出来なかったクラブが多かった。	B
	今後の方向	クラブ員の高齢化が進んでおり、クラブ数が減少傾向にある。学ぶことを継続していけるよう支援をしていく。また、新規のクラブができるよう支援していく。	

意見	補助金だけではなく、団体への具体的な支援をどうしていくか、課題を抱えたクラブが実情・課題・工夫を語り合う場を設け、その中で支援策を見出していてもらいたい。クラブ員の高齢化はしようもないが、少しでも多くの人に参加できるよう呼びかけてほしい。		
<b>⑤ 図書館利用促進整備事業</b>		16,502	
自己評価	今年度よりスタートした「協働電子図書館 デジとしよ信州」の利用促進や新規書架の設置など、図書館サービスの向上に努めることができた。コロナ禍ではあったが予定していたイベントは一部制限を設けて実施することができた。	B	
今後の方向	利用者のニーズに応えられるよう、図書や雑誌等を充実させていく。利用者が参加したくなるようなイベントをより多く開催していく。学習室等の利用が一人でも増えるよう運営の充実を図っていく。		
意見	コロナ禍でも新しい企画のイベント実施され努力されている。多くの人が図書館を利用するよう呼びかけてほしい。		
<b>⑥ 公民館報発行事業</b>		538	
自己評価	村民全体への情報媒体として情報部員の取材により地域の情報を細かくタイムリーに拾うことができた。	B	
今後の方向	誰もが読みやすく親しみのある紙面とするため他の自治体の館報の研究や、研修会へ積極的に参加していきたい。情報発信が後手後手にならないよう、事業計画や進捗状況を的確に把握していく。		
意見	村の多方面に渡り取材、啓発され、知りたいことが紙面からわかるので良いと思うが、パターンが少々マンネリ化しているので、何か特集を組んでみるのも良いかも。もっと掲載スペースを増やしてもよいのではないかな。		
第7節	<b>① 分館対抗事業（野球大会他）</b>	0	
スポーツ活動の推進	自己評価	分館対抗大会（野球・ソフトボール・ソフトバレーボール大会）はコロナ禍で中止となった。	D
	今後の方向	人数が集まらず参加できない分館が年々増加傾向であるため、3地域合同で開催することや人数が集まらない分館で合同チームを作り参加してもらうことも視野に検討していく。併せて、競技種目を検討していく。	
	意見	ここ何年も中止になっており、参加の意欲が薄れている傾向になっている。「今後の方向」で工夫されたい。	
	<b>② スポーツイベント・教室等事業（ストレッチ教室・健康づくり教室他）</b>		323
	自己評価	予定していたスポーツフェスティバル、各種教室等はコロナ禍の影響で中止となった。ゴルフ大会、市町村駅伝大会、小学生陸上競技大会、バレー講習会は感染症対策を講じて実施した。	C
	今後の方向	各教室や講座の開催方法や周知する方法を前例にとらわれず、多くの村民に参加してもらえるよう検討していく。また、スポーツフェスティバルの内容をより良いものにしていく。	
	意見	多くの村民に参加してもらうことが大事。教育委員会がリーダーシップをとり啓発、組織への支援を行い、各年代での多くの方の参加ができるように検討してもらいたい。公民館活動等を行うには、職員が少ないと思われる。	
	<b>③ 体育協会補助事業</b>		687
	自己評価	ジュニアスポーツ団体の育成に力を入れ始めたことで、各部で子ども達の指導を行うようになった。コロナ禍で思ったように活動できていない団体が多く見受けられた。	B
	今後の方向	各団体の加入者が高齢化により減少傾向にあるため、補助金を活用していただきスポーツ振興を進めていきたい。	
意見	高齢化で加入者が少なくなっている。各年代別で体力づくりの求めに応える団体・同好会等の組織作りや支援を求める。団体での活動内容等知らないで加入しない人もいるため、体験や周知について各団体と協議して進めてもらいたい。また、子供とともにやる日を設けていくことも大事である。		
<b>④ 少年・ナイタースポーツ団体補助事業</b>		505	
自己評価	補助金の有効的活用により各団体等でスポーツ振興に寄与することができた。コロナ禍でナイタースポーツ団体は活動を中止または縮小して実施した。	B	
今後の方向	少年スポーツ団体は人数が減少しているチームがあるため、少しでも増加傾向にできるよう周知等を行っていく。		
意見	子ども達の希望スポーツ領域は広がっているため、希望実態を学校と連携把握して団体づくり支援を進めてほしい。他村との合同も考えていかななくてはいけないと思う。		

## 総合評価

評価	評価区分	考え方
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画通り順調に進んでいる</li> <li>・十分に効果が上がっている</li> </ul>	優れた取組や状況等が見られ、課題はほとんどなく、順調に計画が進んでいるもの。
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・概ね計画通り進んでいる</li> <li>・成果がみえる</li> </ul>	良い取組や状況等が見られ、若干の課題はあるものの、概ね順調に計画が進んでいるもの。
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画がやや遅れている</li> <li>・一定の成果が見えるが改善が必要</li> </ul>	課題が少なからずあり、計画の進歩がやや順調ではないもの。また、一定の成果はあったが課題が生じたもの。
D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画が大幅に遅れている</li> <li>・成果が上がっておらず、抜本的に見直しが必要</li> </ul>	課題が多く、着手できていないか、着手しても殆ど成果が上がらないほど、計画が進まなかったもの。